

Summary

In the present report, the following facts about *Ginkgo biloba* were observed:

(1) Relation of the thickness of the periderm and formation of nipples was observed. Trees of the thinner periderm are inclined to have nipples earlier in comparison with other trees.

(2) Action of the transfusion tissue was considered, comparing the tissue with that of *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. and *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.

(3) Anatomical reason of the dichotomy of the vein was considered.

(4) Another case of the heterotype of the vascular bundle of the petiole was added.

引用文献

1. Bernard, Ch. Beiheft. z. Bot. Centralb. **17**: 241 (1904).
2. Fujii, K. 植 雑 **9**: 440 (1895).
3. Gaussen, H. Les Gymnospermes actuelles et fossiles (1946).
4. Gunckel, J. & Wetmore, R. Amer. J. Bot. **33**: 285, 532 (1946).
5. Ogura, Y. 植物形態学, 237 (1934).
6. Sakisaka, M. Jap. J. Bot. **4**: 219 (1929); 医と生 **4**: 345, 348 (1944).
7. Sakisaka, M. & Takami, W. 医と生 **4**: 116, 277 (1944).
8. Sprecher, A. Le Ginkgo biloba L. (1907).
9. Takami, W. 医と生 **5**: 108 (1944), 採と飼 **9**: 45 (1947); 科学 **19**: 424 (1949); **20**: 181 (1950).
10. Takeda, H. Ann. Bot. **27**: 359 (1913).
11. Wylie, R. Amer. J. Bot. **30**: 273 (1943).

〇ヤマイワカガミについて (山 崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Schizocodon ilicifolia* var. *intercedens*

ヤマイワカガミとして大井博士によつて記載されたものは、杉本順一氏が昭和3年オオヒメイワカガミとして書かれたことのあるもので、又カイイワカガミとも呼ばれ、かなり前から知られていた植物である。然し杉本氏もシロバナオオヒメイワカガミとして白花品を別に書いているし、最近檜山氏はシロバナヤマイワカガミを書いていて、この植物が充分認識されていないと思われるので、今までわかっている点を報告しておきたい。この植物はもともと白花のようである。イワカガミには東北地方にシロバナオオイワカガミがある他、殆んど白花はみられないが、ヒメイワカガミには地域的に一定した白花があり、関東北部の谷川岳、日光白根山、那須岳などのヒメイワカガミは白花ばかりである。ヤマイワカガミもこれと類似した性質をもつものと思われ、今まで確かめられた所ではすべて白花である。これは東海地方に分布が限られ甲斐御岳・富士山西麓か

ら甲斐・駿河の山地に分布し、天竜川を越えて三河の段戸山に及んでいる。ヤマイワカガミは全体壮大で、葉が大きく多数の鋭い鋸歯をもつ点でヒメイワカガミから区別できる。ヤマイワカガミの半養のよい個体はオオイワカガミに類似するが、葉の先端が凸出していて、オオイワカガミの葉の先端が多く鈍頭又は凹頭であるのと異なる。然しオオイワカガミにも時に先端の尖るものがあり、特に信州南部(大沢岳・光岳・戸中山等)のものは葉が卵形で先が尖り、葉の形だけでは区別しにくくなる。ヤマイワカガミでは葉の裏面の支脈が凸出しないものが多く葉面は滑らかである。支脈は中肋からほぼ均等な間隔で広い開度で分岐する傾向があり、あまり彎曲しない、葉脚は截形が浅い心臟形である。この葉脈の性質はヒメイワカガミと一致し、オオイワカガミと区別される。後者では葉の裏面の主な支脈は凸出する傾向があり、その分岐部は葉身の基部に集まり幾分掌状脈的な感じがある、支脈は狭い角度で分岐し彎曲する傾向がある、葉脚は深い心臟形をなす。ヤマイワカガミでは仮雄蕊が短く全長 4.5-5mm 遊離部で 2-2.5mm である。オオイワカガミでは全長 6.5-7mm 遊離部 3.5-4mm であり、この長さは花冠の大きさにあまり関係しない。ヒメイワカガミとイワカガミの間にも同じような違いが認められる。ヒメイワカガミ類とイワカガミ類とは近いものなので時に同一種類とされるが、上述の点で区別できそうである。同一種類としてもヤマイワカガミを中間として両者が連絡するといったものでなく、イワカガミに対してオオイワカガミがある如く、ヒメイワカガミに対してヤマイワカガミがあるといった関係である。赤石山脈では信州側と甲斐・駿河側でイワカガミ類とヒメイワカガミ類とが分布を異にしている。信州側では 1300-1600m のキタゴヨウ・コマツガ林の下にオオイワカガミが上部のシラビソ林にはイワカガミがみられハイマツ帯の岩場にはコイワカガミがある。これらは総て花が紅紫色である。甲斐、駿河側では 500-1500m のクリ帯からツガ帯にあたる所にヤマイワカガミがあり、1800-2600m のシラビソ帯にはヒメイワカガミがみられる。ヒメイワカガミは花が紅紫色で信州側のシラビソ帯にもある。



Schizocodon ilicifolia Maximowicz var. **intercedens** (Ohwi) Yamazaki comb. nov.—*Schizocodon soldanelloides* Sieb. et Zucc. var. *intercedens* Ohwi, Flora of Japan : 872 (1953).

採集地, 甲斐: 西山梨郡 御岳, 西八代郡 青木ヶ原 1000m; 富士郡 白糸村 下部峠 1000m; 中巨摩郡 芦安村 夜叉神峠; 南巨摩郡 西山村 大門沢 1400m, 同 ドノコヤ峠 1200m, 同 上湯島 700m, 三里村 内河内 1000m, 豊岡村 大城川 700m, 富河内村 篠井山。駿河: 安倍郡 梅島村 成島峠, 井川村 千枚岳 1500m, 同 東俣 1600m, 同 高瀬島 900m。遠江: 榛原郡 上川根村 寸又川 900m, 中川根村 榛原川 500m; 周智郡 気田村 石切, 同 秋葉山; 磐田郡 竜山村 下平山, 浦川村。三河 北設楽郡 段戸山。

(東京大学理学部植物学教室)